

タマネギベと病情報第1号

令和2年3月13日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

今後の気象予報に注意し、予防散布に努めましょう！

1 発生状況

3月上旬の巡回調査で、タマネギベと病の越年罹病株（図1）が見られるほ場がありました。また、3月8日と10日に40mm以上の降雨がありました。特に、10日は日平均気温も高く、感染に好適な気象条件でした。名古屋地方气象台3月12日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、本病の感染に好適な温度での降雨に注意が必要です。



図1 越年罹病株
(萎縮し、葉が湾曲している)



図2 葉上のべと病菌の菌糸と分生胞子
(白いほこりのように見える)

2 本病の生態等

タマネギベと病の第一次伝染源は、土中に残った卵胞子です。秋から初冬にかけて土中の卵胞子から感染した株が、2～3月を中心に越年罹病株として発病します（図1）。

越年罹病株でできた分生胞子（図2）が飛散し、二次感染します。分生胞子による二次感染は気温10～20℃で、多湿環境や葉身が濡れるような状態で起こります。感染後、約2週間の潜伏期間を経て発病します。二次感染した発病株でも分生胞子が作られ、感染が拡大します。

罹病組織内ではやがて卵胞子がつくられます。残渣とともに土中に残った卵胞子は、次作の第一次伝染源となります。

3 防除対策

(1) 発病株は周辺株だけでなく、周辺ほ場への伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、

ほ場外へ持ち出し適切に処分しましょう。

- (2) 降雨などで葉身が濡れるような状態で感染が起るため、気象予報を参考に、感染前の予防的な防除に努めましょう。また、発生を確認した場合は、ただちに薬剤で防除しましょう。
- (3) 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を控え、表を参考に異なる FRAC コードの薬剤をローテーションして使用しましょう。

表 タマネギべと病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	成分名	FRAC コード
ダコニール 1000 (注1)	収穫 7 日前まで	TPN	M5
ザンプロ DMフロアブル (注2)	収穫 7 日前まで	アトクトラジン ジメトモルフ	45 40
シグナム WDG	収穫 7 日前まで	ピラクロストロビン ボスカリド	11 7
ジャストフィットフロアブル (注3)	収穫 7 日前まで	フルオピコリド ベンチアバリカルブイソプロピル	43 40
フェスティバル C 水和剤 (注2)	収穫 7 日前まで	ジメトモルフ 銅	40 M1
プロポーズ顆粒水和剤 /ワイドヒッター顆粒水和剤 (注1)(注3)	収穫 7 日前まで	ベンチアバリカルブイソプロピル TPN	40 M5
ベトファイター顆粒水和剤 (注3)	収穫 7 日前まで	シモキサニル ベンチアバリカルブイソプロピル	27 40
ランマンフロアブル	収穫 7 日前まで	シアゾファミド	21
リドミルゴールド MZ (注4)	収穫 7 日前まで	マンゼブ メタラキシル(M)	M3 4
ジマンダイセン水和剤 /ペンコゼブ水和剤 (注4)	収穫 3 日前まで	マンゼブ	M3
レーバスフロアブル	収穫前日まで	マンジプロパミド	40

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRAC コードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdf を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

注1 ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤/ワイドヒッター顆粒水和剤に含まれる成分TPNの総使用回数は、6回以内なので注意する。

注2 ザンプロDMフロアブル、フェスティバルC水和剤に含まれる成分ジメトモルフの総使用回数は3回以内なので注意する。

注3 ジャストフィットフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤/ワイドヒッター顆粒水和剤、ベトファイター顆粒水和剤に含まれる成分ベンチアバリカルブイソプロピルの総使用回数は3回以内なので注意する。

注4 リドミルゴールドMZ、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤に含まれる成分マンゼブの総使用回数は、5回以内なので注意する。